

理数科通信

岩手県立水沢高等学校
第15号 令和5年1月20日 発行

フィールドワーク研修 令和5年1月5日(木)・6日(金)

1日目 東日本大震災・原子力災害伝承館（福島県双葉郡双葉町）、東京電力廃炉資料館（同富岡町）

東日本大震災の学び直しと災害に対する防災意識の向上を目的に、福島県双葉郡を研修場所として訪問しました。参加生徒は2年生理数科生徒が4名、1年生が20名、計24名でした。参加生徒の中には1年間でどれだけの変化があるか知りたいと、昨年に続いて参加した生徒もいました。

東日本大震災から11年以上が経ちましたが、被災地の復旧・復興についてはほとんどの生徒が関心を持っていました。しかし、双葉町内の道路を走行中にバスの窓から見える風景は復興とは程遠いものでした。国道6号線の道路脇は廃墟となった店舗がいくつもあり、駐車場も雑草だけが生い茂っていました。このような状況を目の当たりにし、原発事故の爪痕の大きさを生徒達も強く感じている様子でした。



最初の見学地である東日本大震災・原子力災害伝承館では、被害を伝える証言映像や実物資料が展示され、災害の実態と防災について理解を深めることができました。伝承館の職員であり「語り部」としても活動している遠藤美来さんから、当時小学校3年生のときに体験した東日本大震災の地震の恐ろしさや、その後食糧不足で苦勞したことなど自身の被災体験を詳しく話して頂き、生徒達は関心を持って聞き入っていました。今、「語り部」の高齢化が課題となっているようですが、遠藤さんは震災を風化させないようにと地元に残り福島県内外に向けて自分の思いを発信しているとのことでした。フィールドワークでは、浪江町地域おこし協力隊の石山佳那さんにガイドをしてもらい、双葉町と浪江町をバスで移動しながら各地区の被害状況、住民の避難行動、復興の程度などを丁寧に説明して頂きました。海岸から数百メートルしか離れていない請戸小学校では、児童全員が津波から逃れたということでした。なぜ全員助かることができたか、請戸小の児童から学ぶことがいくつもありました。日頃から自分の住む街のことを良く理解することが大事なんだと感じました。



災害を他人事ではなく自分事と考える貴重な時間となりました。東京電力廃炉資料館では、福島第一原子力発電所の事故の原因、事故の経過と対応、廃炉事業の全容や進捗状況など映像を交えながらとても分かり易くに説明して頂きました。廃炉作業の困難さや、様々な職種の方々の努力により廃炉に向けて作業が進められていることが良く分かりました。

2日目 東京電力福島第一原子力発電所（福島県双葉郡大熊町・双葉町）

はじめに廃炉資料館で、事故の原因や被害状況、原子炉の燃料デブリ回収など今後の課題点についての事前説明会があり、その後東京電力のバスに乗り換え福島第一原子力発電所に向かいました。入退域管理施設に到着してすぐに金属探知機など一人ずつセキュリティチェックを受けた後、構内用のバスに乗り換えて見学しました。事前説明会で話があった通り、構内では屋外でも一般的な作業服とマスクの格好で歩いている作業員さんがほとんどで、放射線量が低減しているこ

とが見て分かりました。そして一緒にバスに乗った職員の方から構内施設の役割などについて、一つ一つ丁寧に説明して頂きました。原子炉建屋や貯蔵タンクは、実際見てみるとテレビで見たときとは違い、その規模の大きさに生徒たちも皆驚いていました。途中でバスを降りて、廃炉作業中の原子炉を正面の高台から見学し、詳しく説明を受けました。クレーンなどの作業設備が整然と整っており、予想したほどの緊張感無く、落ち着いて廃炉についての説明を聞きました。海岸から1 kmほどのところに船が停泊していました。そこはALPS処理水を海に放出するためのトンネル工事の一部だという説明がありました。現在、ALPS処理水の海洋放出に向けて、地域住民の意見を取り入れ不安の解消に努めながら慎重に進めているとのことでした。ヒラメやアワビなどを海水で希釈したALPS処理水で飼育し、生育状況の観察もしているとのことでした。



この研修で、廃炉作業にはまだまだ多くの課題があり、年月が必要だということが分かりました。しかし同時にたくさんの人たちの努力と熱意により着実に前進していることを知りました。目を背けないで実際に自分の目で見て、直接聞くことを大切に、これからも物事の本質を見抜く力を身に付けていきたいと考えています。

【生徒の感想より】

- ・今回で2回目の参加となるが、やはり1年では大きく変化している所はなかった。一部で人々が住めるようになったり、道の駅などがオープンしたりして着実に復興に向けた取り組みは進んでいるが、原子力の複合災害ということもあり、復旧・復興の難しさを感じた。また、震災学習で何度も感じさせられることであるが、相手が自然である以上は絶対に安全ということは決してなく、油断は禁物であり、慢心が命を奪うということを感じた。
- ・今回フィールドワーク研修で、初めて双葉町と浪江町に訪れました。岩手の沿岸部のように高い堤防と新しい建物があって、ほんと何もかも失ってしまったのだと思いました。今日一番印象に残ったのは、東日本大震災で福島で亡くなった方々の中には、原発事故の影響で助けたくても助けられなかった命があったということです。これは岩手と大きく異なる部分だと思いました。
- ・実際に福島第一原子力発電所についてみて、最初は警備がすごくてびっくりしたけど、それくらいやらないといけないくらい危険な場所なんだなと思った。第1から第4までの原子炉を見て、思ったより大きいと思った。それにガレキがたくさんあって廃炉にすることの難しさがあった。柵の下で防護服の人が働いていて、命がけでもあるんだなと思った。
- ・福島第一原子力発電所を実際に見学して、知らなかったことばかりで新しい知識を沢山得ることができ、とてもためになった。原発はいま廃炉に向けて作業しており、汚染水や廃棄物の問題があることが分かった。現場は危ないことが多いが少しずつ廃炉に向かっているので風評や様々な課題に向かって頑張ってもらいたいと思ったし、正しい情報を得て発信していくことが重要だとわかった。色んなことを学べて今回の研修に参加して良かったと思った。
- ・東日本大震災で、津波だけでなく原発事故もあったという違いの大変さを実際に見たり聞いたりして新しいことを知りました。放射線や原発の危険性を再認識しました。自分が住んでいるところとは遠いので関係ないものだと思っていましたが、講演や体験を聞き、災害への心構えや、放射線に関してもっと知り、人のためになるよう利用できる方法を探してみたいと思いました。
- ・原発事故の原因や原子力発電所のしくみなど、自発的に調べなければ分からなかったような事が知れて良かった。伝承館で見学をしていたときスタッフの方に、展示されている以上の詳しいことを教えてもらいとても参考になった。津波による被害は岩手や宮城に比べて少なかったようだけど、避難命令によってその場を離れなければならない、助けられなかった命が助けられなかったと知りとても痛ましく思う。このような災害を他人事だと思わず、防災意識を高めて生活していこうと思う。